



いいたてつ子発表会「赤蜻祭」

せきしょうさい



11月10日、飯館中学校体育館で、いいたてつ子発表会「赤蜻祭」が開かれました。テーマは「踏み出せ!はじめの一歩」。こども園と小学校・中学校による初めての合同発表会です。オーピングを飾った開祭セレモニーでは、園児・児童・生徒がそろってステージに登場。実行委員会の菅野竜生委員長(中学3年)が「成果を発表して、それぞれが一步を踏み出そう」とあいさつし、全員が声を合わせて開祭を宣言しました。ステージ上でも上級生が下級生にそつと心を配る様子は微笑ましく、校種を越えたチャレンジの大きな二歩を感じさせるセレモニーとなりました。



大きなステージの上で堂々と演技する園児



「まていの里のこども園」の演目は、0～2歳児が「森のかわいい音楽家」、3～5歳児が「こここそ森のどうぞのいす」。一人ひとりの個性が垣間見える愛らしい発表に会場はメロメロ…

知りたい ぼくたちの 故郷を

までいな 心豊かな 自然

何度でも 立ち上がる この村を

6年生発表の歌から引用

小学生の多彩なステージは、胸を打つものばかりでした。童話「くじらぐも」をモチーフに、論語や四字熟語の暗唱、鍵盤ハーモニカ、フラフープの披露を盛り込んだ1年生8人による「がんばれスーパー1年生」をはじめ、それぞれの演目に工夫が凝らされていて、児童がのびのびと力を発揮しました。

特に、人数の少ない学年においては、二人ひとりが役割を果たし高めて合っている様子、さらには少人数ならではの発表のクオリティに感嘆する声飛び交いました。また、中学年・高学年のメッセージ性が高い発表

では、「子ども達から元気をもらおう」「明日を生きる力がわくね」と涙を流す人もいました。

心に訴えかける歌や演技に会場が湧いた3・4年生の劇。ステージ下には舞台を降りたばかりの児童と抱き合う先生の姿がありました。仮設校舎で過ごしていた昨年度から担任を務める現4年生担任の室井真奈美先生。ステージで児童が表現者となれる要因を尋ねると「二人ひとりが個性的で面白いのです。子ども達の成長を感じながら、私達大人も本気で向き合っています」という応えが返ってきました。

沖縄の伝統舞踊「エイサー」を軽やかに舞いながら故郷への思いを表現した6年生



いきいきと発表する1年生。背景の「くじらぐも」も皆で作りしました



3・4年生の劇。意見を出し合い工夫を重ねたステージ



5年生は和太鼓や組体操で「鼓動」を表現。感謝を胸に「故郷を支える人になりたい」と決意も語りました



仲良しの「忍たま」達は2年生。野菜栽培の発表も熱唱のステージも四人四様で最高でした



小学生の多彩なステージにじっと目を見張る園児席